

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

WTSA (Westbound Transpacific Stabilization Agreement) 加盟の船会社から、4月1日より4-6月分のBAF (Bunker Adjustment Factor 燃料費調整係数：燃料価格変動に対して調整される割増運賃) を\$110値上げするとの発表がありました。加えて4月1日よりGRI (General Rate Increase：基礎レート) を\$300値上げするとの発表もありました。カナダ航路については、4月1日よりGRIを\$200値上げするとの発表がありました。これほどの値上げを全額実施するかどうかは船会社ごとに対応が異なりそうですが、コストの大半を占める燃料代の上昇が大きく影響を与えているのは間違いなさそうです。一部サプライヤーでは、国内輸送賃も値上がりしているため、その分の値上げ要請も産地価格の値上げとは別に来ています。

先月号でご案内した、日本側でのTHC (Terminal Handling Charge：日本のコンテナターミナルにおけるコンテナ取扱料) の17,000円/本 (現行29,000円から46,000円に) 値上げについて、多くの船会社で5月1日実施に延期されました。一部の船会社では発表通り3月1日から実施、あるいは4月1日から実施予定とされています。

また、ワシントン州では先週、雪や路面凍結の影響で主要道路が一時通行止めとなりました。港へのコンテナ搬入の遅れが発生しています。

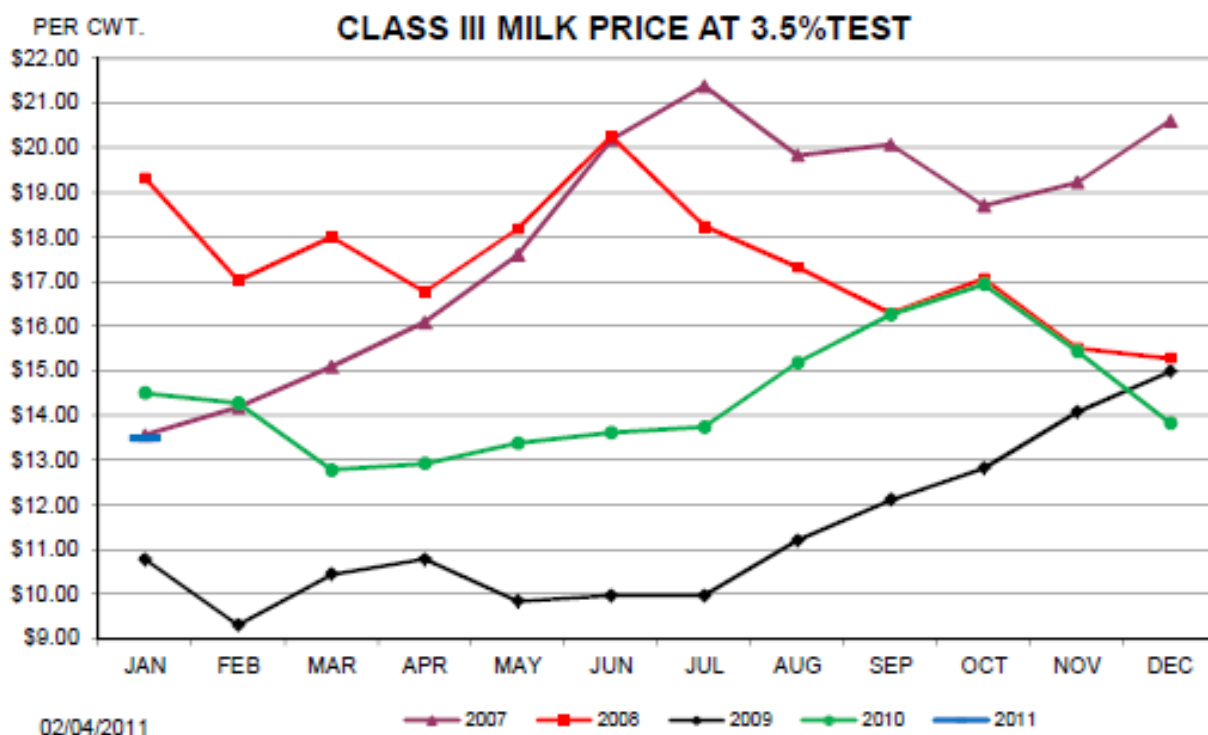


ワシントン州 エレンズバークーシアトルを結ぶ国道90号線の積雪風景 右：2/23撮影 左：3/1撮影

韓国の輸入関税一時的に削減

口蹄疫の発生により、2月24日時点で牛が国内の5%に相当する15万頭も殺処分対象となっている（農林水産省ホームページより）韓国で、乳製品や飼料の輸入関税が一時的に削減されていることが分かりました。韓国国内の物価上昇が要因のようですが、飼料では11年1-12月を対象に、乾牧草が20%から3%へ、ビートパルプが5%から2%へ一時的に削減されている模様です（農畜産業振興機構ホームページより）。例えば、関税込みで\$500/トンしていた乾牧草が\$430弱/トンになるので、大きなインパクトがあるといえます。口蹄疫の影響から、輸入乾牧草の引合いがどのように変化するか不透明な韓国ですが、このような背景から需要は堅調に推移するとも予想されています。

米国の乳価動向



1月の米国の乳価（上記グラフ参照：クラスⅢチーズ向け）は12月より若干値下がりしています。しかしながら、輸出向け乳製品（脱脂粉乳・ホエイパウダー）の需要が堅調なことと、世界的に乳製品価格が上昇していることから、今後は米国の乳価も値上げ傾向で推移すると予想されています。米国の酪農情勢・乳価動向が輸出向け乾牧草（特にアルファルファ）の情勢・産地価格にも大きな影響を及ぼすため、今後も注意が必要です。

ビートパルプ

<米国産>

主産地では10年産の収穫が終了しています。穀物相場の高騰から、米国内での引合いが増えて生粕での出荷が多いことと、ペレットの生産が進むにつれて歩留まりの悪さが明らかになってきたことから、ビートパルプの生産量は当初の見込みより大幅に減少する模様です。また、欧州産や中国産の供給不足から、米国産ビートパルプの引合いも強いようですが、追加で供給できる余力はほとんどない模様です。

先月号でもご案内したGMO種子の取扱いについて、11月にUSDA（United States Department of Agriculture：米国農務省）は、30日間の公聴会による聴取期間を経て、問題がなければ来春のGMO種子の作付けを求めるとするガイドラインを提案しました。USDAの最終判断が待たれていますが、未だに発表はされていません。11年産のビート大根は早い地域では3月下旬から作付けが始まるため、各製糖会社は対応に苦慮しているところです。3月中旬までには発表がされると考えられていますが、今後どのように進展するか、引続き注意が必要です。

<中国産>

10年産のビートパルプの生産量は増加する見込みですが、国内需要の増加を背景に輸出向けはむしろ低下している模様です。輸出余力は全体で100,000トン程度とされています。10年1-12月の中国産ビートパルプ輸入数量は、韓国が145,566トン、日本が47,513トン（両国の輸入通関統計資料より）なので、明らかに供給不足となりそうです。他産地での代替も厳しいことを背景に、中国産の輸出向けは、売り手市場に転じている模様です。

アルファルファヘイ

ワシントン州では、穀物相場の高騰により、昨秋からトウモロコシ（一部小麦）への転作が増えてきています。そのため、11年産のアルファルファの作付面積は大きく減少すると予想されています。加えて、10年産の数量も少ないことから、11年産のアルファルファの価格は開始と同時に強含みで推移することが、早くも予想されています。

カリフォルニア州インペリアルバレーでは、早い圃場では既に2番刈が開始されています。1番刈は主に米国内向けとして出荷されているようですが、価格は高騰している模様です。UAEや中国、韓国などからの需要は引続き堅調で、常に問合せがあるようです。作付面積は、2/15時点でのエーカーレージレポートによると、前年対比100%の132,838エーカーとなっています。穀物相場の高騰から

小麦への転作が増えて、作付面積が大きく減少するとも予想されましたが、UAEや中国向けの引合いが堅調に推移しているため、作付面積は大きく変わっていない模様です。

先月号でもご案内した1月27日にUSDAがGMOアルファルファの作付けを認可したことについて、今年収穫される11年産の作付けは既に終了しているため、影響があるとする12年産以降のアルファルファとお伝えしましたが、一部産地では2月に播種がされた（今年収穫予定）との情報もあります。今後産地ではどのように進展するか、引続き注意が必要です。

チモシー

<米国産>

10年産は、産地では早い段階でハイグレード品を中心に売切れ（成約済み）となっています。日本からの引合いは引続き強く、カナダ産の情勢も受けて、各サプライヤーへの問合せも多いものの、売れる物がほとんどない状況です。10月中旬の出荷から屋内くん蒸費用が発生しているにもかかわらず、タイト化が続いています。

酪農用、馬用ともに、順調な需要がある一方で、穀物相場の高騰によりトウモロコシへの転作も一部であるようです。11年産の作付面積については、コロンビアベースンでは少し減、エレンズバーグでは前年並みと予想されています。

<カナダ産>

スーダングラスのハイグレード品や豪州産オーツハイの情勢も受けて、出荷は順調な模様です。しかしながら、10年産は単収減による過去15年で最低レベルの生産量だったため、取扱い数量が減少しているのが現状です。

出荷は順調でも、生産コスト（肥料・燃料）の価格上昇や2年続けての低い収量から、一部では穀類への転作も予想されるため、11年産の作付面積についてはあまり増えず、昨年と大きく変わらないとも予想されています。

スーダングラス

10年産は、早い段階でハイグレード品が売切れ（成約済み）となりましたが、チモシーや豪州産オーツハイの状況も受けて中間グレード品以下も売れ始めたため、大手サプライヤーではほぼ全てのグレードで売切れとなっているようです。

インペリアルバレーでは、小麦の作付けが始まっています。2/15時点でのエーカーレポーターによると、前年対比132%の67,310エーカーとなっており、既に昨年のピーク（4/15時点で57,366エーカー）時を超えています。

す。昨秋から予想されていた通り、穀物相場の高騰から小麦の作付けが増えてい
ます。スーダングラスから小麦への転作が多くなる場合は、早播きスーダングラス＝
ハイグレード品の供給数量が減少し、価格は強含みに推移する傾向が例年みられま
す。また、産地では冷涼な気候が続いているため、スーダングラスの播種が例年よ
りも2－3週間遅れる見込みです。豪州産オーツハイの情勢も受けて、11年産は
強い引合いで開始すると予想されるので、今後の産地の作付け動向については注意
が必要です。

クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

10年産は、依然として韓国からの引合いが強く、大手サプライヤーではローグ
レード品を含めて、ほぼ全て売切れ（成約済み）となっているようです。そのため
産地価格は強含みで推移しています。

スーダングラスと同様に、産地では冷涼な気候が続いているため、11年産クレ
イングラスの収穫が例年よりも少し遅れると予想されています。また、韓国やU
A Eから順調な需要があるため、11年産の作付面積については例年並みで推移す
ると予想されています。

ストロー類

10年産は、韓国向け、日本向けともに順調に出荷されている模様です。供給数
量の不足が懸念される在庫量と、豪州産オーツハイの情勢を受けて引合いが増える
と予想されることから、産地価格は今後も強含みで推移すると予想されています。

11年産の作付面積について、引続き種子の需要が低迷しているため、フェスキ
ューは10%程度の減少、ライグラスは前年並みと予想されています。穀物相場
の高騰からトウモロコシや小麦への転作がさらに増えた場合、ストロー類の生産量
はさらに減少する懸念もあります。

豪州産オーツハイ

<西豪州>

西豪州全体の輸出向け生産量は例年の半分以下の120,000トン前後まで減
少すると予想されていますが、国内向けにかなり引合いが強いため、100,00
0トン程度になるとも一部では予想されています。輸出向けが「史上最高値」で推
移している10年産の産地価格も、国内向けの相場はそれよりもさらに高い価格で
推移しているため、生産農家がまだ抱えていそうな未成約分のオーツハイについ
ても、大半が国内向けに売られると予想されます。

今年の西豪州産は極端に収量が少なく、多くの生産農家が厳しい経営を強いられ

ています。安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、11年産オーツハイの作付面積については、大きく減少することも懸念されています。

<南豪州>

10年産は中間グレード品以下の発生量が7-8割と多く、例年であれば産地価格の軟化が期待されますが、西豪州での不足から引合いが南豪州に流れてきているため、産地価格も強含みで推移しています。アジア地域からの輸入貨物の減少から、アデレード港出しの船積みスペースのタイト感が顕著で、船積みの遅延は深刻な状態となっています。さらに複数の船会社が共同配船（2-3社で一船を使用）を決定したため、すぐに解消される見込みは薄く、むしろ恒常化しています。南豪州では、海上運賃の値上げと不安定なデリバリーが今後も懸念されます。

西豪州と同様に、安定した収入が見込める穀類への転作が多いと予想されるため、11年産オーツハイの作付面積については、大きく減少することも懸念されています。

<東豪州（ヴィクトリア州）>

南豪州と同様に、10月末から1月まで断続的に降雨が続いたため、ほとんどの圃場で深刻な雨あたり被害を受けています。輸出向けはおろか、国内向けにも売れないような品質となってしまったものも多く発生しています。また、ベーリング自体を諦めた圃場も多く発生しています。そのため、東豪州全体の輸出余力は、例年の3-5割程度にまで落ち込むと一部で予想されています。また、メルボルン港出しもアデレード港と同様に船積みスペースのタイト感が顕著で、船積みの遅延は深刻な状態となっています。東豪州でも、不安定なデリバリーが今後も懸念されます。

西豪州や南豪州と同様に、穀類への転作が多く、11年産オーツハイの作付面積は減少することも予想されていますが、いまだに在庫を売り切れていない生産農家も多いため、そこまでの予測がまだされていないのが現状のようです。

以 上